

# 山城国分寺跡



天平 16 (744) 年に都が難波宮 (現在の大阪市) に遷された後、天平 18 (746) 年にこの地は山城 (山背) 国分寺として造り替えられます。大極殿は、国分寺の金堂として使われるとともに、塔など新たな建物も多く造られました。

寺域は東西約 275 m、南北約 330 mの規模で、 周りは築地塀で囲まれていました。



山城国分寺 塔跡(南西から)



史跡恭仁宮跡(山城国分寺跡)の周辺地図

#### 令和3年度版



# 史跡 恭仁宮跡(山城国分寺跡)



#### 1 恭仁宮って?

天平 12 (740) 年、聖武天皇によって恭仁宮が 造営され、平城京から都が遷されました。ここで は「国分寺建立の詔」が出され、「墾田永年私財法」 が定められるなど、歴史上の重要な舞台となりま した。現在、恭仁宮跡及び山城国分寺跡は史跡に 指定されています。



# 2 天子 は宮る 役/



### 2 放浪の聖武、「大・引越」事業

天平 I2 (740) 年からの6年間、聖武天皇 は宮を転々とします。

役人に平城宮から恭仁宮に引っ越すように 命じ、大極殿や回廊などの大きな建物も恭仁 宮に移築されました。

都が平城京に戻った後、恭仁宮の大極殿は 山城国分寺の施設(金堂)として利用されま した。

#### 3,天平の甍

恭仁宮跡の発掘調査で、最も多く見つかるのは屋根に 葺かれた瓦です。これらの中には、平城京で使っていた 瓦のリサイクル品も含まれていますが、恭仁宮で新調さ れたものが中心です。

中には「<u>恭仁宮式文字瓦</u>」と呼ばれる瓦工人の名をスタンプした瓦もあります。これらは、天平 12 ~ 15 年に造られた、まさに天平の甍といえるでしょう。



六人部 出雲 大伴 中





## 恭仁宮の中心施設

大極殿院 宮の中心にあたる場所で、重要な儀式などが行われました。恭仁宮の大極殿は築地回廊とともに平城宮から移されたものです。特別史跡平城宮跡(奈良市)の大極殿の復元建物は、恭仁宮跡の調査成果を参考に建てられています。



大極殿の復元イメージ (南西から・木津川市教育委員会提供)

内裏 天皇が住まいし、儀式などが行われた場所を内裏といいます。恭仁宮では、東西約 100 m、南北約 125 mの規模の「内裏西地区」、東西約 110 m、南北約 140 mの「内裏東地区」の 2 つの区画があったことがわかっています。

**朝集院・朝堂院** 朝集院は官人が儀式の際に待機するところ、朝堂院は高官が執務や儀式を行う当時の政治の中心となる場所でした。恭仁宮の朝集院、朝堂院の外形は、平城宮と同じ形をしていた可能性があります。

## **\*\*\*\*\***

#### 恭仁宮発掘 50 年 ギャラリー ◆◆◆◆◆◆◆



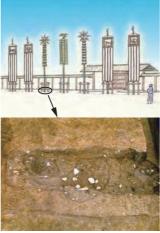
②大極殿の正面階段。大極殿に



①大極殿院では、両側に通路がある「築地 回廊」がみつかった



⑥内裏地区から、大極殿を望む。



③正月の儀式で使われた旗を立 てた痕跡(下)とその復元図(上)



⑤内裏東地区で見つかった、築地基壇の痕跡。



⑧宮に入る門は「八脚門」と呼ばれる格式高い門であった。



⑦令和3年の調査では、朝堂院 の北東隅がみつかった。



④大垣の基壇は扁平な石で飾られていた。

